

- 目次 ◆ 新年のご挨拶  
◆ 世界糖尿病デー ～イベントを行なって～



## 新年のご挨拶 地域の皆様に愛される病院を目指して



院長 別府 慎太郎

みなさん、明けましておめでとうございます。  
穏やかで良いお正月を迎えられたこととお慶び申し上げます。

すでにご案内していますように、私たちの病院は、昨年春に一般財団法人「船員保険会」から独立行政法人「地域医療機能推進機構」に移行しました。公設民営から公設公営の病院になり、永年親しんだ「大阪船員保険病院」から「大阪みなど中央病院」と名称も変わりました。「機構」の主眼は、この地にお住まいの方々が安心して暮らせるように医療を提供する、すなわち地域医療に貢献することです。

住民の方にとって自分の身体を任せられるという安心感は大変重要です。「機構」は日本全国に57の病院を展開し、地域医療の推進と同時に、ガンや心臓病などに代表される5疾病の診断・治療や救急医療や災害医療などに取り組む5事業を重点項目と考えています。私たちの病院は、「機構」の持つ使命を念頭に、この地域性を重視し、内科や外科のみならず他の診療科も充実させていきたいと思っています。それ故今年は従来以上に、地域医療の要である診療所開業の先生方や医師会とも協力し、また介護の中心となる老人健康施設などとも連携を密にし、行政側である大阪市や港区とも協力して、皆様方への医療を行ってまいります。

「機構」に属して名前は替わりましたが、病院の診療体制に大きな変化はありません。例年通り、外来・入院診療を継続しています。ただ、この数年は皆様に馴染みにして頂いていた医師の何名かが定年や大学人事異動のために退職し、いくつかの診療科で診療科長が替わりました。消化器内科では森科長、林科長に替わり村田科長が、整形外科では篠田科長に替わり大野科長が、泌尿器科では客野科長に替わり安永科長が、形成外科では日笠科長に替わり藤山科長が診療科長として着任しています。新任の先生方はこの地の港(みなど)気質(かたぎ)に多少戸惑いながらも誠心誠意の診療に当たっています。従来通り、大阪みなど中央病院は、医師をはじめ、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、薬剤師、栄養士、理学療法士など、全ての部門が一致協力して、安心でき信頼できる医療を提供する所存です。

大阪みなど中央病院は、地域の皆さんの病院です。

## 世界糖尿病デー ～イベントを行なって～



### 【栄養管理室】

世界糖尿病デーに栄養管理室が参加して、まず何をしたら参加者が喜ぶかと思いついたのが、「サイコロで賞品ゲット」でした。ただ単に商品を渡すのは面白くないので、遊び心でサイコロを使って出た目の数字だけ商品を持って帰って頂くように考えました。今回のイベントに際し、沢山の健康食品の試供品を紹介させて頂き、沢山の参加者に喜んで頂きました。

栄養管理室は、会場を2階栄養相談室にしていたので、参加される方が少なく寂しい思いをしたので、「こっちから迎えに行きさしあげよう！」と、会計計算や診察待ちの方々が見える1階ロビーにまで商品を選び、イベントを再開することにしました。すると参加者は一気に増えて大盛況でした。しかし、「糖尿病教育のビデオ上映」は2～3名の参加でした…。今回初めての行事だった為、うまく宣伝ができていなかったことが参加人数が伸びなかった原因だと思います。来年は場所を考え、参加者がもっと喜んでくださる内容も考えたいと思います。



### 【理学療法室】



リハビリテーション科は、「糖尿病の運動効果」と「お家で簡単エクササイズ」と題してレジスタンス・ストレッチ訓練を実演し、また、ポスターセッションと持ち帰れるパンフレットをたくさん作成して参加者の皆様をお待ちしていました。

参加された方は運動に興味をお持ちだということで、お話だけでなく「運動の専門家」と一緒に実演できた事に「今後、参考にしたい！」とお褒めの言葉を頂くことができました。「世界糖尿病デー」のイベントなので、大勢の参加があると用意周到に準備はしていましたが、予想を大きく下回り（笑）、事前の宣伝不足が悔やまれました。次回開催時には、参加者に興味を持って頂けるようなタイトルにすることや、パッと目を引く宣伝方法を提案して、実りあるイベントにしたいと思います。



### 【薬剤部】

普段の服薬指導などの業務の中で、糖尿病を患っていても糖尿病の病識が乏しい方が意外と多いものだな…と感じていました。その原因として、糖尿病について学ぶ機会があまりないことや、家族が糖尿病についてあまり理解できていないことではないかと思ってい

ました。そこで、今回開催される「世界糖尿病デー」のイベントを通じて、糖尿病を患っている方だけではなく、患者を支えている家族の方にも糖尿病について理解をしてもらいたいと考えました。また、糖尿病発症の予防や、糖尿病の合併症進行の抑制に貢献できれば良いなど、イベント内容を考えて準備しました。

準備中、「糖尿病の方に理解を深めてもらえるのか」、「糖尿病でない方に興味をもってもらえるのか」と色々不安になりましたが、その不安を吹き飛ばす勢いで多くの方から声をかけていただくことができ、興味を持ってもらったのだな…と「世界糖尿病デー」のイベントをすることは必要なのと感じました。ただ、「治療薬のお話」となると、治療薬を飲んでいない方にとっては、少々とつきにくかったのではないかと感じました。次回からは、治療薬だけではなく、糖尿病についての色々な相談を受けられるように、努力していきます。

もしかしたら、事前にアンケートを取っておいて、質問の多い事例と薬剤師からの回答を掲示しても面白いのではないかと考えたりしています。次回開催時までには作戦を練っておこうと思います。



### 【看護部】



知ってそうで知らない。自分の体を知ってもらおう！と、「BMI測定」「血糖測定」「災害に備えましょう」と、3つの項目を準備しました。

肥満は様々な合併症を引き起こすといわれています。WHOの基準ではBMI 30以上を肥満と定義しています。

しかし、日本ではBMIが25以上になると糖代謝異常・脂質代謝異常・高血圧症などの有病率が格段に上昇することが知られているために、「BMI測定」をすることに決めました。

「BMI (body mass index : 体格指数) 測定」「血糖測定」では、実際に機械を使用して「自分の体の声」を測定してもらおうと準備しました。そこには、60名という大勢の方に集まって頂くことができ、普段気にはなっているけど、なかなか測ることができないだけで、興味を持っておられるのだな…ということがわかりました。





「災害に備えましょう」では、「災害はいつ起こるかわからない」と題して常日頃から災害に対する心構えと準備が必要であると、ポスターでお示ししました。災害が発生して長期間避難することになれば、普段健康な体でも体調を崩す可能性があります。さらに、糖尿病患者さんにおいては、避難後の体調管理が十分でないと生命を危機にさらすことになります。

そこで、「災害キット」として通常の非常用品にプラスして、準備しておくことが必要な物をまとめて展示しました。

「サ」→さとう（低血糖対策用のブドウ糖）、「イ」→インスリン、「ガ」→カンパン、「キ」→貴重品、「ツ」→連れ添い人（家族）、「ト」→糖尿病手帳以上を、大きな模造紙に実際の物品をぶら下げて、「災害キット」としてリュックサックに物品を詰めて準備していることが大事ですよ！と、視覚的に訴えかけました。

参加されたかたの笑顔が忘れられません。次回も開催できるように頑張ろうと思いました。

これからも、地域の皆さんが健康に過ごすことができるように、スタッフ一丸となって支えていきたいと思えます。参加者のみなさま、ありがとうございました。

#### 《世界糖尿病デーとは》

糖尿病は今や世界の成人人口のおよそ5～6%となる、2億4600万人が抱える病気です。一般的に死に至る病気との認識は薄いですが、年間実に380万人以上が糖尿病の引き起こす合併症などが原因で死亡しています。これは世界のどこかで、10秒に1人が糖尿病に関連する病で命を奪われている計算となり、AIDSによる死者に並ぶ数字です。このまま進むと、世界の糖尿病人口は、2025年には3億8000万人に達することが予想されています。

国際糖尿病連合（IDF）が、11月14日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進することを呼びかけました。

11月14日は国連及び主要国で様々なイベントが開催されます。

（※11月14日は、インスリンを発見した人の誕生日なのです）

#### 《シンボルマーク “○”》

“Unite for Diabetes”

（糖尿病との闘いのため団結せよ）というキャッチフレーズと、国連や空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」を表しています。

発行

大阪みなと中央病院／地域医療連絡室

〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30

TEL 06-6572-5721(代表) FAX 06-6572-6713

<http://minato.jcho.go.jp/>

